

始



401
36

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

44-36

64
653

水止の本目

景勝丁八瀨

日本の山水

例言

輓近寫眞術の進歩は、優に繪畫の壘を摩して、將に、一個獨立の美術たらんとする現世紀の状態なり。蓋彼は、一枝の彩管に、神興の理想を描き、此は、一葉の紙楮に、自然の妙趣を寫す。而して、彼は、此に踈つこと多く、此亦彼によりて光あり。抑、耶馬溪の勝にして、山陽の文あり、赤壁の景にして、東坡の賦あり、將、雪舟の筆、特に、瀟湘八景に於て、其遒勁を認む。由來、大山名河、文人を産し、幽泉空谷、詩客を生し、而して、勝區名寰、畫家を造る。即、天地澎湃の氣、偉人の胸に湧いて、筆端に迸るは、方に此處に存す。

弊堂聊、此に鑑みる所ありて、自ら揣らず、從來、此技を以て鳴り、幸に、關西の鎮と目せらるゝに至れるは、豈、嘗に弊堂の本懐なるのみならんや。是に於て、一層、斯道に盡し、一は、山秀水麗、絶東美術國の眞景を、世界に披露し、一は、江湖大方の眷顧に酬いん爲に、一大奮發を以て、本題の撮影蒐集に従事し、我國の絶景名勝を網羅し、數年を期して大成せんとし、巨額の資を供し、特技の粹を選び、苦心經營、企畫、漸く熟して、今茲に、第一卷發兌の好運を得たり。

夫、紀州瀨八丁の絶勝は、夙に、天下に知られ、有志の士、足、一たび造り觀て、吟懷を養ひ、「スケッチ」を富まさんとすれども、地遠く境僻すれば、未だ達せざるもの多し。弊堂、乃、技士を派し、畫家を伴ひ、拮据月を重ね撮り來りて、漸く本帖を成せり。怪巖清泉、山高く樹茂く、其壯觀、地文學上、太古代に於ける片岩の峭壁削り成せる天斧の痕は、優に、粉本に資すべく、千載を経る水成の奇石、洗ひ出せる神巧の蹟は、自然を味ふに足るべきを信じて、一本を世の藝術家、及一般雅客の座右に薦むとて、此に一言を贅す。希くは、幸に、斯道の爲に賞鑑の榮を賜ひ、且、弊堂が抱負の一斑を諒せられんことを

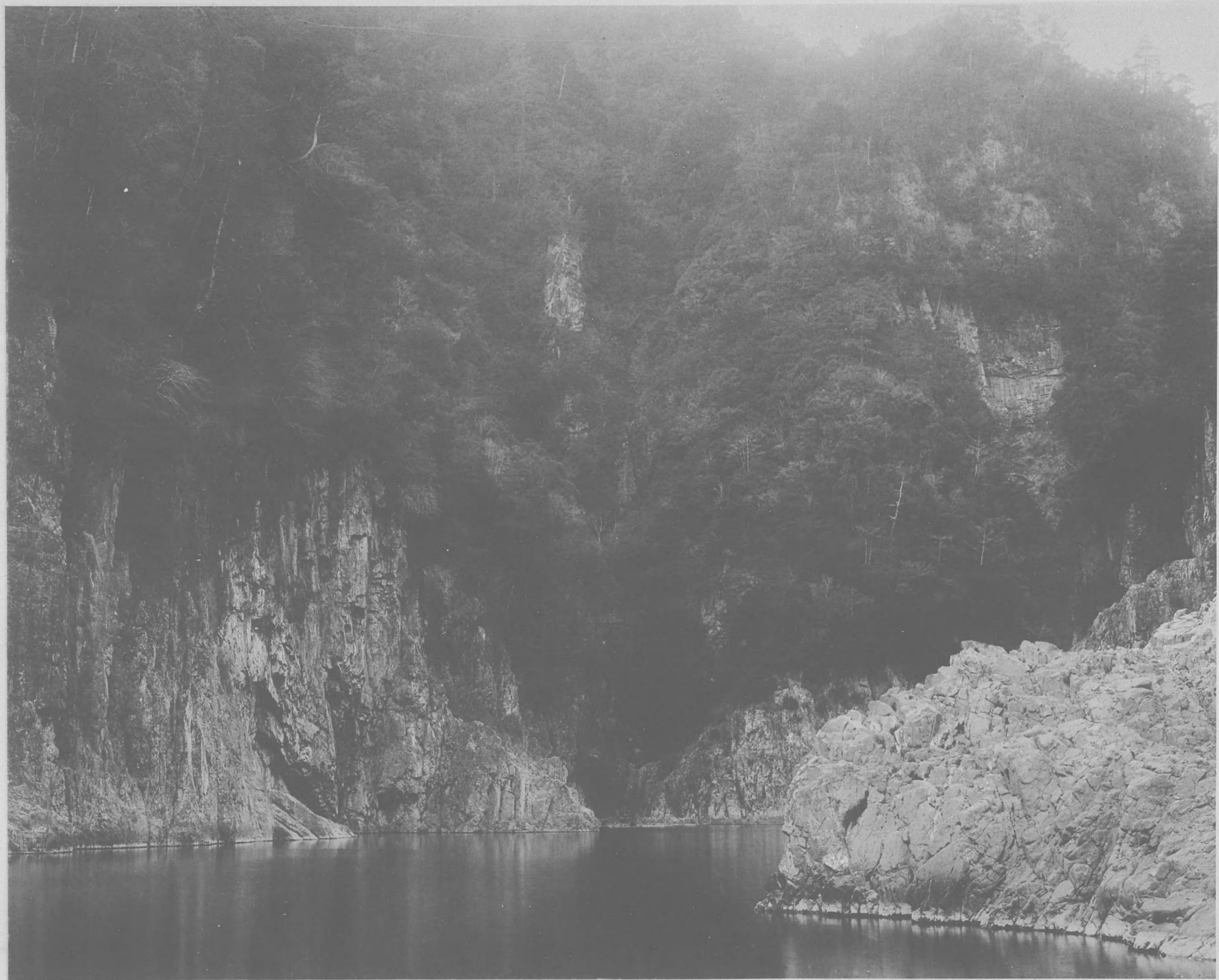
明治
37 3 9
内交











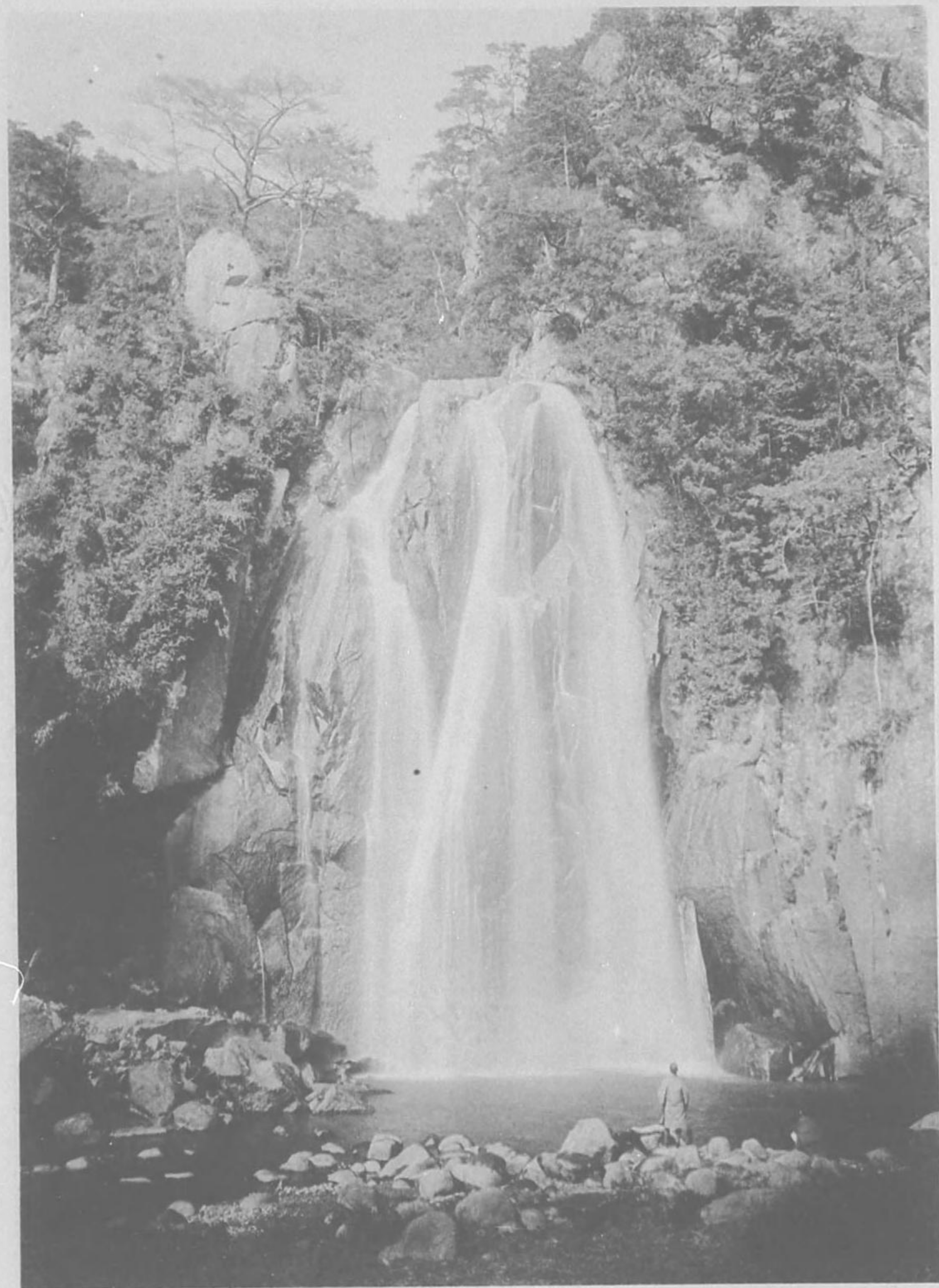














26/10/3

明治三十七年三月五日印刷
同 卅七年三月十一日發行

定價金壹圓貳拾錢

編輯者兼

藤田德太郎

京都市下京區綾小路通
高倉西入神明町

發行者

島村定次郎

京都市下京區不明門通
松原下ル吉水町十三番戶

發行者

松田愛

京都市上京區二條通
河原町東入樋ノ口町七番戶

印刷者

金子印刷所

神戸市兵庫湊町二丁目

發賣所

石敢堂書店

京都市二條河原町東入

64
353

401
36

Ⓜ

終